



山下一平会長

全国福祉用具専門相談員協会(会長・山下一平)は

「愛称・シンボルマーク」が決定 協会の「ロゴ」制作 「評価ポイント作成委員会」を設置 全国福祉用具専門相談員協会



全国福祉用具専門相談員協会

21日、同会の愛称とシンボルマークを発表した。6月7月に同会が全国的に公募し、16歳から91歳まで1160の応募作品の中から、「愛称・シンボルマーク審査委員会(委員長・左白ひとみ株式会社左白ひとみデザイン室代表取締役)が決定した。愛称の「ふくせん」は、愛知県の飯尾敏男さん

(39歳)、シンボルマークは新潟県の松岡光雄さん(53歳)の作品。同会ではこれらをもとに同会の「ロゴ」を制作(図)、今後このロゴを同会の広報ツールとして活用していく。受賞者の表彰式は来年2月21日、東京・東商ホールでの記念講演開催の席上行うという。

また、同会は、福祉用具専門相談員の能力アップに向けたインセンティブが働くよう、受講した研修ごとにポイントが加算され、実績が指標として目に見える形となる仕組みをつくるよう動いている。このたび、福祉用具・介護分野の著名識者を委員とする「評価ポイント作成委員会」を設置し、評価システムやポイント設定のあり方等の検討を進めることとなった。このような仕組みは介護業界でも例がない。